



指扇中だより



～WE LOVE SASHIOGI!～

〒331-0078 さいたま市西区西大宮 3-31-1 TEL 048(624)6234 FAX 048(624)2479

『白い雲にのって』

校長 おお ころ うち のり かず
大河内 範一



平成の初め、私がまだ30歳そこそこで、若さだけを勢いにして担任をしていた頃の話である。今ではあり得ないような内容が含まれているのだが、何しろ昔の話なので御容赦いただきたい。

朝、登校してきた女子生徒が「先生、弱っている子犬を拾ったので、とりあえず教室のベランダに置いていいですか」と神妙な面持ちで聞いてきた。私は「よし、見つからないようにするんだぞ」と、珍妙な指示を出し、子犬をかくまった。

給食の時間は動物好きの生徒たちが集まり、牛乳やパンを食べさせていて、私はその様子を微笑ましく眺めていた。ただ、子犬が静かに待機することは難しく、すぐに学校にばれてしまった。「大河内先生の教室に犬がいるようですが…」「ええ、まあ…」というやり取りを上司と行った末、案の上、犬禁止が言い渡された。

「夜間はどうやって面倒を見たらいいか、帰りの会で相談したい」と何人かが言ってきたので、生徒たちに任せてどうなるのか見守っていた。最後は誰かがシフト表みたいなものを作成し、子犬の世話をする順番が決まっていた。

子犬の今後については、次の学級会の時間に話し合うことになった。「誰か貰ってくれる人はいませんか」という悲痛な訴えに応えられる生徒はなく、困惑が広がっていったが、「犬を貰ってくれる団体が、駅前に時々来ているようだ」という発言で光明が見え、そこをお願いするしかないという結論に至った。

当時、私はワゴン車に乗っていたので、選抜された「子犬対応精鋭部隊」7名と一緒に目的の駅に向かった。「先生、部活は何と言って休んだらいいですか」「うーん、家庭の都合あたりでいいんじゃないか」と、相変わらずいい加減な指示であった。駅前で無事に子犬を引き渡した後、このプロジェクトの成功を祝うために、みんなでアイスを食べることになった。「いいことをすると、アイスが美味しいね」と笑顔が溢れていた中、私も満足げな顔でペロリとなめた気がする。

思い返すと、とてもじゃないが良い指導とは言えない。でも、何事にも全力で一生懸命頑張っていこうという気持は持ち続けていた。とにかく全身全霊でぶつかっていくことが大切だと思う。そうすれば思い出は美しく輝き続ける。

夏の空に浮かんでいる白い雲を眺めていると、あの時の生徒たちが微笑んでいる幻影が見えたような気がした。「あの頃の僕はハチャメチャだったけど、今はちょっとだけ立派になったよ。みんな元気にしてるかな」と、つぶやいてみた。